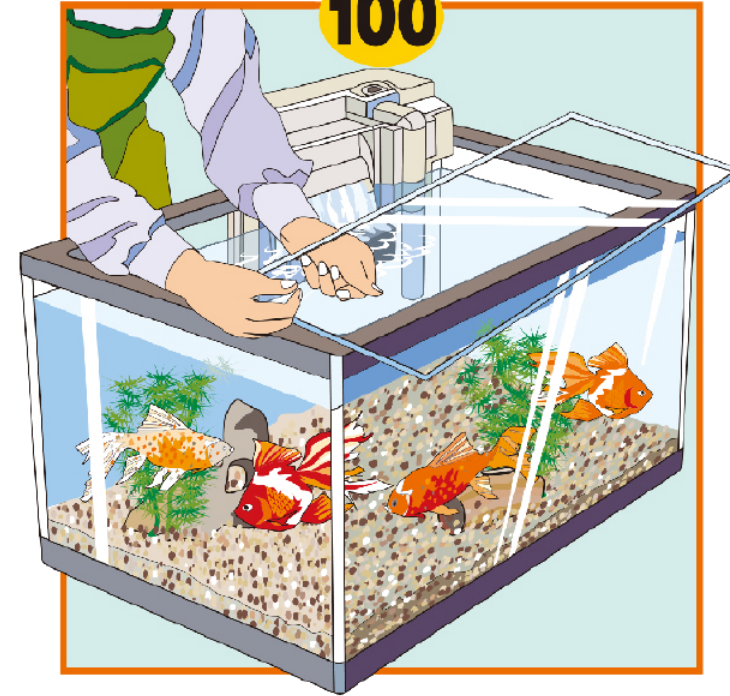


金魚の飼い方

自分でやってみよう!

セキチュー
How To D.I.Y

100



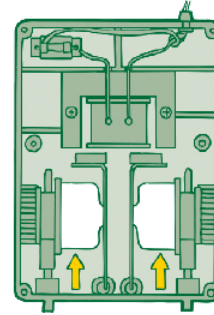
動くインテリアとして人気の高い水槽で、最近では熱帯魚や爬虫類等といった生き物の飼育もポピュラーになってきましたが、その一方でなかなかうまく育たないとよく耳にします。相手は生き物です。細心の注意と管理が必要ですので、根気よく、そして愛情を持って飼ってあげることが肝心です。ここでは水槽で飼うのに最もポピュラーな、金魚の飼い方の基本を紹介します。熱帯魚なども基本は同じですが、分からないところは係員や専門家に尋ねてください。

Do it Yourself & Save

ここがポイント!

エアープンプの故障

古くなって空気が出なくなったエアープンプは、電源を抜いてから、裏のふたをあけ、中のお椀型の黒いゴムのナットをはずして交換すると、また使えるようになることがあります。



日本DIY協会認定DIYアドバイザーが、ご質問にお答えいたします。お気軽にお声をおかけ下さい。

サービスのご案内



●下記クレジットカードがご利用できます



□はギフト券もご利用いただけます



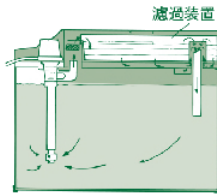
制作発行/株式会社セキチュー 販売促進課
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111(大代表)

©無断転載は禁止します

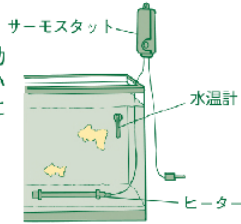
●濾過装置

水槽の上にセットする上部フィルターは水槽内の水を循環させて、エサの残りやフン等を取り除く装置で、水を常にきれいにし、酸素が不足しないようにしています。水槽が大きく、金魚の数も多い場合は、別にエアープンプを入れてエアを送ったほうがいいでしょう。



●水温の調節

金魚は水温12~26℃ぐらいの温度で活動しますので、水槽にサーモスタットのついたヒーターを入れておくと、一年中活発に泳ぎまわります。



●エサの与え方

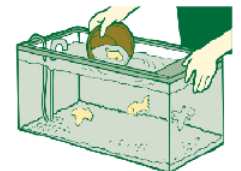
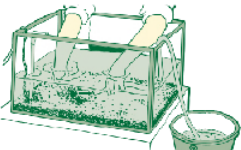
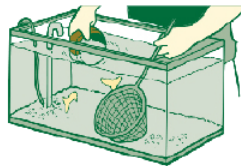
エサは水槽に入れた次の日から与え、その後は3~4日に一回、少なめに与えてください。イトミミズやアカムシ、ミジンコ等の生き餌は最近では手に入りなくなっていますので、金魚用のドライフードを購入してください。水温が8℃以下になると動きが鈍るので、与えないほうがいいでしょう。エサを与えなくても金魚は長く生きていくので、なるべく少量を与えるのがコツです。そうすると水質もあまり悪くならず、フィルターの掃除の回数も少なくてすみます。

●水の交換

金魚鉢の場合は、1週間に一度は替えないと水質が悪くなりますが、フィルターのある水槽の場合は1週間に一度ぐらいは全体の3分の1程度を替えて、そのときに水槽も掃除をするといいでしょう。水槽のガラスについた青ゴケ等の汚れは、専用のスポンジ等で拭くときれいに取れます。

<交換方法>

- ①濾過装置をはずしてから、金魚を水槽の中で小さな容器に入れて他に移し、水車やエアープンプのホースなど引き上げます。
- ②ビニールホースの片方を水槽に入れ、もう片方から強く吸うと、水槽の水が上がってきますので、それを素早く下のバケツに戻すと、後はサイフォンの原理で水がバケツに流れこみます。ついでに底面のゴミもホースの先端を向けると吸い込まれていくので、大まかなゴミはこれで取れます。
- ③水をあらかた抜いたら、小石や濾過マット、フィルター等を全部取りだし、よく洗ってからセットし直します。水槽の四方の壁もスポンジできれいにしてください。
- ④1、2日前にくみ置きしておいた水か塩素中和剤で中和した水を注ぎこみます。水温を調べ、低い場合は40℃以下の湯を少しずつ注ぎながら水温を調節してください。そして水が落ちついてから、水槽から移した金魚を静かに戻します。



金魚の基本的な飼い方

金魚の種類

金魚の原産地は中国で、日本には室町時代の終わり頃に入ってきたといわれています。種類的には大まかに分けて、原種に近い和金(わきん)型、胴体がつまって丸みを帯び、ヒレが長い琉金(りゅうきん)型、背ビレがなく、胴体が筒型の蘭鎗(らんちゅう)型等があります。世界では約40種類ほど飼育されているようですが、一般家庭ではそのうちの約20種類ほどが飼われています。上手に飼えば7、8年の寿命があります。

次に代表的なものをあげておきます。

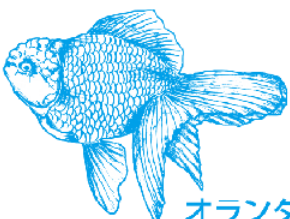


和金

東錦



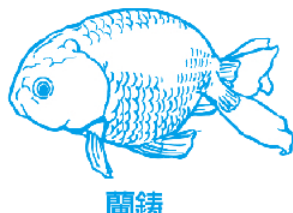
水泡眼



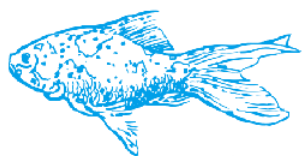
オランダ



丹頂



蘭鎗



朱文金



琉金



出目金



コメット

水槽の選び方

金魚鉢

夏の清涼感を誘う金魚鉢ですが、1、2匹程度を泳がせて、エアープンプを入れて空気を通すぐらいしかできませんので、なかなかうまく育ちません。



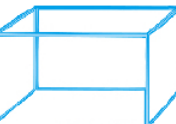
プラケース

金魚鉢より少し大きい程度で、金魚を3~5匹飼うぐらいでしたら大丈夫ですが、エアープンプを入れられるだけなので、水を頻りに交換しなければなりません。



ガラス水槽

四角い枠で組まれた水槽で、金魚に限らず、本格的に鑑賞魚を飼育するのならこれです。最近ではいろいろな形やサイズのものが市販されていますので、置く場所に合ったものを選びます。



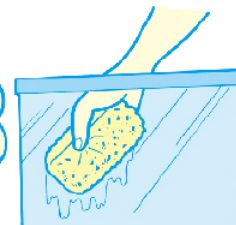
アングル水槽での飼い方

①置く場所を決める

幅60×奥行30×高さ36cmの一般的な水槽で水を入れた状態での総重量は約80kgにもなりますので、この重さに耐えられるところを選ぶようにしてください。

②水槽をよく洗う

購入した水槽にはホコリや油がついていますので、使う前にスポンジで軽くこすり洗ってください。洗剤は絶対に使わないで、水だけで洗うようにしてください。



③砂利を洗う

バケツか洗面器に砂利を入れ、水がきれいになるまで何度も洗います。1回の洗いに時間をかけるよりも、水を替える回数を多くした方が早く、きれいに洗えます。



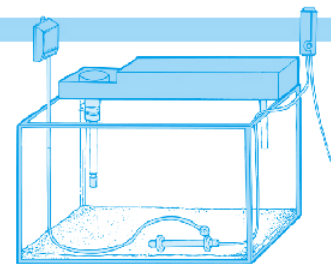
④砂利を敷く

手前を3~5cm、奥に7~8cmというように傾斜をつけて敷くと、立体的なレイアウトができます。



⑤器具を取りつける

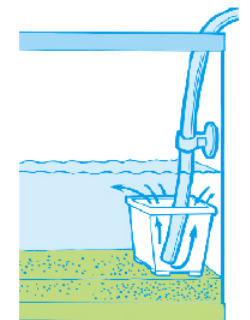
濾過装置やサーモスタット、ヒーター、エアープンプ、水時計などをセットします。ヒーターやサーモスタット等の電源は、水を入れてからプラグに差しこむようにしてください。またサーモスタットのセンサーとヒーターはなるべく離すようにセットしましょう。



⑥水を入れる

水は砂利が舞い上がらないように静かに注ぎこんでください。砂利の上にプラケースを置き、その中に水を注ぐようにすると砂利が舞い上がりません。ホースはキスゴムで水槽に固定しておくといいでしょ。そして半分ぐらい入れてから、エアープンプの電源を入れてみて、ゴボゴボという水の音が聞こえるかどうか確かめてください。

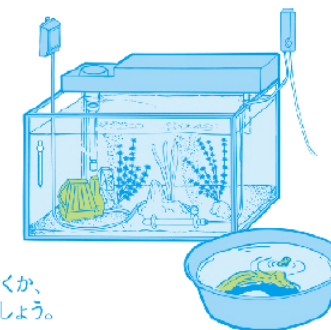
※水道水の場合は、1~2日ほど汲み置きしておいたもの(できれば日光に当てたもの)を使うか、水道からすぐ入れる場合は、必ず塩素中和剤を決められた数量で、小さな容器の中でよく溶かしてから水槽に入れるようにしてください。そうしないと水道水に含まれている塩素で金魚が弱ってしまいます。また温度差も金魚を弱らせる原因になるので、気をつけてください。



⑦アクセサリを入れる

水車小屋や石、水草、流木などを入れて、水を上部まで入れてください。それから濾過装置とエアープンプを作動させて、数日間は金魚を入れないで、水を濾過しておくといいでしょ。

※流木を入れる場合は、あらかじめ長い時間水につけておくか、鍋で煮てアクを抜いておきましょう。



⑧金魚を水槽に移す

金魚は急激な水温の変化に会うと弱りますので、金魚をビニールに入れたまま水面に15~30分ほど浮かせておき、それから口をあけて袋の中の水を水槽に入れたり、水槽の水を逆に袋の中に入れりしながら袋を沈めていき、完全に袋が水の中に入ってから、そっと金魚を袋の外に出してやります。しばらくは水槽に近づかないで、慣れるまでそっとしておきましょう。

